

- 🌀 ワークショップ終盤で担任の先生に下記のロールプレイにご参加いただきます。
- 🌀 それまでのワークショップ中は会場後方からご覧ください。子どもたちの日常との違いなどを観察しておいてください。
- 設定：親戚のお兄さんにいやなさわられ方をされた子ども役（＝CAPスタッフ）が先生に相談をする劇です。
- （ ）さんと（ ）さんは、挙手をした子どもがします。
- 先生は前に用意をしたイスに座ったまま、下記のシナリオのように進めてください。
- セリフを覚えなくても見ながら読んでくださって構いません。

先生ロールプレイのシナリオ

子ども役：ねえ、（ ）さんと（ ）さん、こないだ話した親戚のお兄さんのことなんだけど、やっぱり〇〇先生に相談しようと思うんだ。でも、一人では心細いからついてきてくれるかな？

友達：うん。

子ども役：ありがとう。じゃあ、行こう！



子ども役：先生、ちょっといいですか？

先生：もちろん、いいですよ。

子ども役：この間、CAPの人がきて、僕たちには安心・自信・自由の権利があるってなりましたよね。

先生：よく覚えていたね。大切なことをなりましたよね。

子ども役：実はぼく、親戚のお兄さんからいやなさわられ方をされて困っているんです。このことを（ ）さんと（ ）さんに話したら、ついて来てくれたんです。

先生：そう・・・。よく話してくれたね。

（ ）さんも（ ）さんも、友達の力になってくれたんだね。ありがとう。

先生も一生懸命考えたいと思うから、放課後に相談室（変更可）で、ゆっくり聞かせてくれるかな？

子ども役：先生に話してちょっと、安心しました。

先生：じゃあ放課後相談室でね。話してくれてありがとう！！

子ども役：（うなずく）

子ども役：（ ）さんも（ ）さんも ついて来てくれてありがとう。心強かったよ。

- 「もちろん、いいですよ」を、丁寧に言ってくざると、子どもたちはとても安心するようです。傷つき体験をした子どもは自分のせいだと思っていますから、この言葉が響きます。
- 先生のせりふは、主旨を変えずに方言になるのは構いません。
- 大げさなお芝居や笑いを誘うような仕草などは避けてください。
- 先生ロールプレイは、子どもたちの選択肢が広がる大切な部分です。リラックスした気持ちでチャレンジ下さい。